

2024 年度 学生発案プロジェクト報告書

# 利尻島地域創生フィールドワーク



札幌学院大学

# 目 次

はじめに

1. 利尻島地域創生フィールドワーク実施計画の概要
  - 1) 目的
  - 2) 日時
  - 3) 関連機関協賛
  - 4) 参加者及び引率者
  - 5) 宿泊施設
  - 6) フィールドワークの内容
  - 7) 日程
  
2. 学生発案プロジェクト事前活動
  - 1) 趣旨
  - 2) 目的
  - 3) 利尻島に関する事前学習（特色・地方創生の取り組み・教育環境等）
  - 4) しおりの作成
  
3. アンケート調査の概要と調査結果
  - 1) アンケート調査の概要
  - 2) アンケート調査の結果
  
4. 利尻島地域創生フィールドワークの学びから
  - 1) 利尻島備忘録
  - 2) 利尻にて 2024
  
5. 利尻島地域創生フィールドワークの感想
  
6. 利尻島市域創生フィールドワーク事後活動
  - 1) 離島フェアの概要
  - 2) 参加活動
  
7. 資料集
  - 1) 利尻島体験活動の報告①（仙法志小学校）
  - 3) 利尻島体験活動の報告②（北海道鴛泊中学校）
  - 3) 利尻島体験活動の報告③（北海道利尻高等学校）
  - 4) 事後報告会資料

おわりに

## はじめに

みなさんは人と話すことは好きでしょうか。

現場に出てさまざまな人の話を聞くのがフィールドワークです。苦手な人もフィールドワークの活動を通していろいろな人と話すうちにワクワクし、コミュニケーション力が高まっていることに気付けるかもしれません。

本年度、私が授業で提案したことがきっかけで人文学部学生 8 名・引率 2 名が参加し、「利尻島地域創生フィールドワーク」を企画しました。そして 8 月に実際利尻島で活動することができました。

利尻島では、利尻富士町と利尻町の役場の協力を得ながら、教育機関（仙法志小学校、鷺泊中学校、利尻高等学校）を視察したり、ウニ剥き体験、海藻押し葉クラフト体験、島内サイクリング、郷土料理体験、昆布漁師や移住体験者の講話等、さまざまな地方創生を考える場を提供していただきました。

島の自然環境や島民の温かさに触れ、参加した学生からは「もう一度利尻島を訪問したい」「利尻島の小・中学校の教員になりたい」との感想が聞かれました。

これを一つのステップとして、将来自分が住む町や故郷をより良くするために何ができるかを考えるヒントを得ることができました。また、利尻島で学んだこと、体験したことを後輩たちにも伝えたいという感想も聞かれました。

利尻島との繋がりを継続していくため、11 月にはイオンモール札幌発寒で実施された「北海道離島フェア」に参加しました。利尻島や他の道内離島を PR するボランティアを通し、それぞれの島の良さを改めて知り、学びを深めることができました。

今後も利尻富士町、利尻町のイベントやお祭りへの参加や児童生徒への学習支援体験など活動範囲を広げるとともに、他の島でも活動させていただければと願っています。そして、この活動が本学学生に根付くことを期待しています。

札幌学院大学人文学部人間科学科  
教授 栃真賀 透

## 1. 利尻島地域創生フィールドワーク実施計画の概要

### 1) 目的

離島でのさまざまな体験や学校視察等を通して、今後の学生生活や卒業後の指針となるような学びを得る。また、島体験学習を継続して啓蒙できるよう、後輩に伝えていく。

### 2) 日時

令和6年8月25日(日)～8月30日(金) 5泊6日関連

### 3) 機関協賛

利尻しまじゅうエコミュージアム

担当：利尻富士町役場（産業振興課課長 関 光徳）

利尻郡利尻富士町鴛泊字富士野6番地

TEL (0163) 81-1111

### 4) 参加者及び引率者

D220237 高松 未菜      D220377 金澤 瑞姫      D220415 今井 柚花

D220423 橋詰 多絵      L220048 岡田 朝日      L220331 酒井 啓達

L220455 佐藤 遥      L220552 井上 葵

\*引率者

栃真賀 透（人文学部人間科学科教授）

照山 秀一（人文学部英語英米文学科教授）

### 5) 宿泊施設

地域防災・複合交流施設（旧本泊小学校）

利尻郡利尻富士町鴛泊字本泊155

### 6) フィールドワークの内容

- ① 小学校視察（利尻町立仙法志小学校）
- ② 中学校視察（利尻富士町立鴛泊中学校）
- ③ 高等学校視察（北海道利尻高等学校）
- ④ ウニ剥き体験（利尻町神居パーク）
- ⑤ 海藻押し葉クラフト体験（利尻町杢形）
- ⑥ 利尻島のルーツを巡る着地型体験プログラム（利尻富士町）  
（サイクリング、観光体験）
- ⑦ 利尻昆布漁師による講話
- ⑧ 移住者体験講話
- ⑨ 郷土料理体験など

## 7) 日 程

月 日	時 間	1 日 の 流 れ	備 考
8月25日(日)	22時30分 23時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地下鉄バスセンター駅集合。</li> <li>・札幌出発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数、持ち物確認</li> </ul>
8月26日(月)	5時30分  7時15分  8時55分  9時30分 12時～17時  21時～22時 22時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稚内駅前バスターミナル(着) (着後稚内港に移動し、各自朝食)</li> <li>・稚内港(発) (東日本フェリーで利尻島に移動)</li> <li>・鴛泊港(着)</li> <li>・宿泊先(旧本泊小学校)に移動</li> <li>・買い物、散策、入浴(温泉)等</li> <li>・宿泊施設で自炊</li> <li>・交流会(役場職員・学生・引率者)</li> <li>・ミーティング(翌日の予定確認等)</li> <li>・就寝</li> </ul>	<p>到着後、利尻富士町役場職員による説明会実施、宿泊施設の確認</p>
8月27日(火)	7時 8時 9時   15時30分 17時～ 21時～22時 22時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・起床、朝食準備</li> <li>・朝食</li> <li>・利尻島体験(2日目) <ul style="list-style-type: none"> <li>○北海道利尻高等学校視察</li> <li>○ウニ剥き体験</li> <li>○海藻押し葉クラフト体験</li> </ul> </li> <li>・利尻島体験終了、買い物他</li> <li>・宿泊施設で自炊、夕食</li> <li>・ミーティング(翌日の予定確認等)</li> <li>・就寝</li> </ul>	<p>ウニ剥き体験終了後に昼食(杓形)</p>
8月28日(水)	7時 8時 9時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・起床、朝食準備</li> <li>・朝食</li> <li>・利尻島体験(3日目)</li> </ul>	

	<p>17時</p> <p>21時～22時</p> <p>22時30分</p>	<p>○利尻島のルーツを巡る着地型プログラム（サイクリング、利尻島一周観光体験など）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利尻島着地型プログラム終了</li> <li>・宿泊施設で自炊、夕食</li> <li>・ミーティング（翌日の予定確認等）</li> <li>・就寝</li> </ul>	<p>昼食（宿舎）</p>
<p>8月29日（木）</p>	<p>7時</p> <p>8時</p> <p>9時</p> <p>18時～</p> <p>21時～22時</p> <p>22時30分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・起床、朝食準備</li> <li>・朝食</li> <li>・利尻島体験（4日目） <ul style="list-style-type: none"> <li>○仙法志小学校視察（4名）</li> <li>○鴛泊中学校視察（4名）</li> </ul> </li> <li>・利尻富士町（ペシ岬観光等）</li> <li>・利尻昆布漁師による講話</li> <li>・移住者体験講話</li> <li>・交流会（今回の島体験の振り返り）</li> <li>・ミーティング、荷物整理</li> <li>・就寝</li> </ul>	<p>昼食については、男子は鴛泊の食堂、女子は仙法志小の給食。</p>
<p>8月30日（金）</p>	<p>7時</p> <p>8時</p> <p>9時</p> <p>13時30分</p> <p>15時</p> <p>15時55分</p> <p>16時15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・起床、朝食準備</li> <li>・朝食、宿泊施設の清掃、荷物整理</li> <li>・利尻島体験（5日目） <ul style="list-style-type: none"> <li>○利尻島郷土料理体験（女子4名）</li> </ul> </li> <li>・郷土料理体験・昼食終了、</li> <li>・宿舎清掃</li> <li>・利尻空港到着</li> <li>・利尻空港（発）</li> <li>・札幌丘珠空港（着）</li> <li>・解散</li> </ul>	<p>男子は利尻空港に移動。</p> <p>郷土料理体験後に試食を兼ねて昼食。</p>

## 2. 学生発案プロジェクト事前活動

### 1) 趣 旨

北海道は、人口が札幌に集中する傾向にある。一方、地方では地域活性化を進めており、地方での生活に魅力を感じて移住する人もいる。

私たちは、卒業後の就職を考えたとき、地方での生活や仕事に興味を持っている。地方都市での生活や仕事にはどのような魅力があるのか、実際に体験し考えてみたい。

利尻島には、東京の大学生が学生時代の利尻島体験を通して、利尻島に魅力を感じ、卒業後、移住して利尻富士町役場に就職したという話を聞いた。惹きつけた点は、自然と人の温かさだったと聞く。

私たちは大学の先生を通じて、利尻富士町の生活や仕事の魅力、町としての取り組みなどについて学びたいということを利用富士町役場に連絡したところ、快く協力いただくことができた。

そこで、私たちは利尻富士町の研修施設（旧本泊小学校）に宿泊し、利尻富士町役場職員から、利尻の生活の魅力について学ぶとともに、利尻の小・中学校や高等学校を訪問し、利尻島での魅力について考えてみたい。

このプロジェクトについて他の学生にも呼び掛けたところ、子ども発達学科4名のほかに英語英米文学科5名の学生も賛同し、9名（現地参加は8名）で事前活動を行うことになった。今回のプロジェクトを実施するにあたり、人間科学科の栃真賀教授、英語英米文学科の照山教授も引率していただいた。

私たちはこの企画を通して、北海道における札幌集中の現状と地方活性化、魅力発信の取り組みについて考えていきたい。

### 2) 目 的

このプロジェクトを実施するにあたり、次の8点を中心に事前活動・現地体験・事後活動を進めることになった。具体的な項目は以下の8項目である。

- ① 人口減少の実態と、地方創生について知る。
- ② 離島（僻地）の学校教育の現状と課題を知る。
- ③ 体験活動や町の人たちと交流する。
- ④ 現地の担当者と地方創生プランを考える。
- ⑤ 事後、島でのアンケート調査結果や考えたことの報告
- ⑥ 今後、町に協力できることを提案したい。
- ⑦ 高校生との交流の中で札幌学院大学について興味をもってもらう。
- ⑧ この学びを今後の学生生活に生かし、社会人としての意識を高める。

### 3) 利尻島に関する事前学習

#### <利尻島の特徴>

- ①日本最北の離島（利尻島・礼文島）
- ②豊かな自然環境
- ③主要産業は観光業と水産業（漁業を生かした加工食品の製造・販売）
- ④人口減少と高齢化の進行
- ⑤水産業の後継者不足など

#### <利尻島の地方創生への取り組み>

利尻富士町では、人口の社会減少に歯止めをかけるために4つの基本目標を掲げている。

- ・基本目標1⇒地域特性を活かした産業を育て、安定した雇用を創出する。
- ・基本目標2⇒本町の魅力を発信し、新しい人の流れをつくる。
- ・基本目標3⇒若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる。
- ・基本目標4⇒安全で安心な住み続けたいまちをつくる。

#### <教育環境の充実>

##### ① 小中一貫教育（9年間）の推進

⇒学年を第1期（小1～小4）、第2期（小5～中1）、第3期（中2～中3）の学年を区切った指導を実施している。

（ア）小・中学校の教員が乗り入れ授業を実施（英語、算数、音楽など）

（イ）小・中学校だけでなく、利尻高等学校でも継続・推進。

⇒参加者全員が教職課程を履修しており、教育環境に関わるメリット・デメリットについて調査したい。

### 4) しおりの作成

利尻島地方創生フィールドワークの事前学習が進む中で、研修中に必要な事項を一つ一つ確認・整理するため、しおりを作成することになった。5泊6日の研修中の内容・事前準備の物品・教育視察校での交流活動の内容等、それぞれの活動内容を全員で確認・整理しながら、3名の学生がしおり（案）を考えて作成した。しおりには、今回の研修の目的・日時・概要・関連協賛機関・参加者・連絡先・日程・利尻高等学校の視察と交流会活動・旅行中の経費・持ち物・島体験のスポット等、フィールドワークに必要なと思われる事項を記載した。



### 3. アンケート調査の概要と調査結果

#### 1) アンケート調査の概要

フィールドワークを実施するにあたり、事前活動での趣旨、目的、利尻島の特徴、地方創生への取り組み、教育環境の充実等を踏まえながら、アンケート調査を作成した。

担当者がアンケート（案）を考え、全員で話し合っ、調査内容を決定した。以下がアンケート調査内容（10項目）である。

- ①現在、あなたは利尻島から出て、他の地域で生活したいと思いますか。  
（「はい」「いいえ」のどちらかを選択し、理由を記入する）
- ②利尻島を代表する産業は何だと思ひますか。  
（「産業名」を記入する）
- ③これから力を入れたい、または入れるべき産業は何だと思ひますか。  
（「産業名」を記入する）
- ④利尻島の魅力や取り組みをもっと全国的にPRすべきだと思ひますか。  
（「はい」「いいえ」のどちらかを選択し、具体的にPRしたいことを記入する）
- ⑤利尻島に住んでいるメリット・デメリットを教えてください。  
（メリット・デメリットを記入する）
- ⑥学校教育において、ICT機器はどのくらい活用できていますか。  
（空白回答可）
- ⑦利尻島の人口を増やすためにどのような取り組みが必要だと思ひますか。  
（必要な取り組みについて記入する）
- ⑧美しい利尻島の景観を保つためにどのような取り組みが必要だと思ひますか。  
（必要な取り組みについて記入する）
- ⑨利尻島が今後、姉妹提携したいと考える都市はありますか。あればどこですか。  
（「ある」「なし」のどちらかを選択し、「ある」場合は都市名を記入する）
- ⑩利尻島の魅力は何だと思ひますか  
（島の魅力について記入する）

#### 2) アンケート調査結果

アンケート概要を踏まえながら、利尻富士町・利尻町に住んでいる人を対象に現地で実施した。アンケート調査については、町役場職員・高等学校教職員など職種が限定されたが、8名の方から回答をいただくことができた。以下に回答内容を踏まえながら、考察する。

- ①現在、あなたは利尻島から出て、他の地域で生活したいと思ひますか。  
⇒はい1人、いいえ6人、その他1人。

「いいえ」の回答が多く、①生活基盤があるため現状で満足、②仕事のやりがいがある、③利尻島の自然が大好きなどの理由が挙げられた。

②利尻島を代表する産業は何だと思いますか。

⇒水産業と観光業。インバウンドの旅行者が増え、1年中観光客が絶えないとのこと。夏は島内観光や利尻山登山等、冬は山スキー等のアウトドアを楽しむ観光客が増えている。

③これから力を入れたい、または入れるべき産業は何だと思いますか。

⇒漁業を中心とした観光業などの複合産業、福祉（介護・保育）などがあげられる。水産業に特化するのではなく、1次産業から6次産業へと幅広い産業分野を考えながら島の発展に力を注いでいることが窺われる。

④利尻島の魅力や取り組みをもっと全国的にPRすべきだと思いますか。

⇒「はい」が8名の回答である。理由としてリピーターの定着。空港もあり、交通が不便でない。アクティビティが豊富。自然環境の豊かさなどが挙げられたが、SNSを管理できる人がいないため、利尻島の発信が難しいという意見も聞かれた。

⑤利尻島に住んでいるメリットとデメリット

⇒メリットは町の機能がコンパクト、海と山が近くアクティビティが豊富、大自然が生活の中にある（四季を通じた自然の素晴らしさ）。ストレスフリー。お金がかからないなど利尻島の魅力や取り組みと同様の意見が挙げられた。デメリットとして、悪天候の時の交通障害。医療が行き届いていない。物流のコスト、買い物が不便などの意見があり、なかでも医療に関する不安が多かった。

⑥学校教育において、ICT機器はどのくらい活用できていますか。

⇒小・中学校には町の支援により、一人1台の情報機器（iPad）が提供されており、授業の中で児童生徒が使用している。また調べるだけでなく、発表・報告の自己表現ツールとして活用している。

⑦利尻島の人口を増やすためにどのような取り組みが必要だと思いますか。

⇒様々な意見が挙げられたが、なかでも「移住者受け入れの環境整備」「お試し移住者の定員増加」「移住ポータルサイトのPR」など、島外からの受け入れに関わる意見が挙げられた。また古くなった住宅も多く、町営住宅の新設などの意見も聞かれた。

⑧美しい利尻島の景観を保つためにどのような取り組みが必要だと思いますか。

⇒利尻島の自然環境を守りたいという意見が多かった。具体的には、「地域住民のゴミに関する意識の向上」「来島者への呼びかけ」「自然保護の啓発活動」などが挙げられ、町として、「コマドリプロジェクト」を今後も広く知っていただきたいとの意見も出された。

⑨利尻島の魅力は何だと思いますか

⇒山、森、水、海といった自然環境の豊かさ、人の温かさなど、島ならではの魅力が数多く取り上げられていた。 \*⑨については「なし」の回答であった。

## 4. 利尻島地域創生フィールドワークを振り返って

### 利尻島備忘録

札幌学院大学人文学部人間科学科 柝真賀 透

このプロジェクトは本年6月に学生に声を掛け、学生9名（こども発達学科3年4名、英語英米文学科5名）・引率2名の計11名でスタートした。補助金が出る「学生発案プロジェクト」に応募した。PP資料を作成し、審査を経て、「利尻島地域創生フィールドワーク」が学生発案プロジェクトに採用された。私は三年ほど前からこのプロジェクトを学生と一緒に実施してみたいと考え、利尻富士町役場産業振興課のS課長さんと連絡を取り合い、ようやく実現できる運びとなった。自分の記録を見返しながら、今回の5泊6日で実施した「利尻島地域創生フィールドワーク」を紹介する。

#### 8月25日（日）

学生が待ちわびた出発の日が来た。22時30分に地下鉄バスセンター駅の待合室に集合。1名の学生が病気のため急遽欠席、引率の照山教授も家庭の事情で研修途中からの参加となったため、当日は学生8名・引率1名で出発した。22時50分に宗谷バスに乗車。バス内の座席は3列になっており、1席ごとにカーテンで仕切ることになっていた。深夜はカーテンを閉め、ブランケットを棚から降ろして、就寝。参加学生はバスでの宿泊が初めての者が多く、早朝まで寝つけない者もいた。

#### 8月26日（月）

早朝5時30分、稚内フェリーターミナルに到着。熟睡できなかった学生はやや疲れ気味である。Tさんは酔い止めを服薬したが、バス酔いで体調が思わしくない様子だ。フェリーターミナル内で買い物をして、朝食をとる。

7時15分、ハートランドフェリーで利尻島鴛泊港へ向け稚内港を出航。海域は風・波も落ち着いており、船酔いする学生はいない。船内ではトランプ等をして楽しむ。

8時55分、鴛泊港に到着。「札幌学院大学御一行様」の横断幕で利尻富士町役場職員から



の歓迎を受ける。S課長ほか役場職員2名と挨拶を交わし、宿泊先である「利尻富士町地域防災・複合施設（旧本泊小学校）」に車で移動する。ここは、町の防災施設（避難所）であるが、宿泊者が利用できるよう改装され、島外からの宿泊者を受け入れている。役場職員から、施設内の説明を受け、いよいよ活動開始である。

外は小雨が降っており、学生と共に今後の予定を話し合う。午前中は雨があがるまで卓球や体育館内でバスケットをし、身体をほぐす。徐々に天気が回復してきたので、利尻富士町からお借りしたレンタカーに全員乗車し、利尻町杓形岬公園に移動する。到着後、公園内の海岸散策、普段は海で遊ぶことの少ない学生たちはヒトデを捕まえて写真撮影をするなど大はしゃぎだった。



13時、杓形の「ふるさと食堂」で昼食。ボリュームのあるメニューに驚愕しながら、それぞれが注文して腹ごしらえ、満足した様子である。レンタカーに戻り乗車しようとするが、ハチ（ブヨ）らしきものが数匹いてキャーキャー言って騒ぐ者もいる。

14時、駕泊の利尻富士温泉に移動し、島唯一の温泉で疲れを癒す。鶯が鳴く露天風呂に入り、心がホッとす。こんなリラックスした時間を毎日過ごすことができれば何と幸せだろう。

入浴後、利尻富士町漁協ストアやサツドラで買い物をする。今夜の飲み物、明日の朝食に必要な食材等を購入、準備万端である。

16時、宿舎到着。天気も回復し、学生全員で本泊周辺のサイクリングに出かける。本泊港まで行き、利尻島の自然環境の豊かさに触れ、「海がとても綺麗だった」と話してくれた。

この日の夜は利尻富士町・利尻町の役場職員が駆け付け、歓迎会をしてくれた。学生が好みそうなメニューと飲み物で2時間ほどを過ごす。学生も役場職員と打ち解け、明日からの活動が楽しみな様子。歓迎会終了後、ミーティングを行い、本日の振り返り、明日の予定の確認をする。22時30分、就寝。

## 8月27日（火）

7時起床。学生は眠そうな顔をして起きてくるが、みな元気そうである。朝食担当のSさん、Tさんを中心にみんなで協力して作り始める。朝食は昨夜の残り物（おにぎり・肉）と玉子焼き、ソーセージ、味噌汁など。飲み物は自由選択。歓迎会時に作成したテーブルを囲んで食べ始めた。食欲もあり、本日の活動にも全員参加できそうだ。

9時20分、宿舎を出発、20分後に北海道利尻高等学校へ到着。学生たちの視察を楽しみにしていた生徒たちが、教室の窓から手を振ってくれる。学生たちもそれに応じて両手を振っていた。校舎内に入り、視聴覚室に移動する。室内には1・2年生全員が私たちの到着するのを待っていた。

早速交流会の開始である。はじめに本学学生の自己紹介、その後今回の利尻島地域創生フィールドワークの説明、さらには本学人文学部英語英米文学科、こども発達学科、人間科学科についてPRし、生徒からの質問を受けた。時間が経つにつれて、お互いに打ち解け、話しが弾んだ。生徒との会話を通して、学生一人ひとりが本学での学びの成果を発揮することができたように思う。

その後体育館に移動し、交流の場を設けた。普段、児童会館等でアルバイトをしている学生を中心に考え、フルーツバスケットと借り人競争を行った。高校生が十分楽しめる内容であった。



本日の学校視察取材に来ていた宗谷新聞社のHさんから取材を受け、交流会の趣旨などを伝える。当日の様子は後日地方紙に掲載された。2時間半ほどの学校視察を終え、次なる目的地「神居パーク」へ移動する。ここでは、ウニ採りとウニ剥き体験を実施予定であったが、生憎の天気で磯舟にのることはできなかった。事前に採ったウニをザルに入れ、そのウニを割って昆布の食べ残しやトゲを取り除く作業だ。一つひとつのウニに繊細な作業が必要であるということをも身を持って体験した。参加者全員がウニを剥き終えたところで磯の香りも格別なウニを美味しくいただいた。利尻島のウニは本当に旨い。

13時。沓形に戻り、ミッシュラン一つ星のラーメン店「味楽」で昼食。土・日曜日の昼食時間帯は超満員だそうだ。看板商品は「焼き醤油ラーメン」で、数名が迷わず注文していた。私も利尻島に来た時には必ず寄るが、いつ食べても旨い。



この日最後の活動は、「海藻押し葉クラフト体験」である。利尻島周辺には 100 種類以上の海藻がある。海岸に打ち寄せられた海藻と島に咲く野の花の押し葉を使って、ハガキ、しおり、キーホルダーなどを作る。全員で作ったキーホルダー・しおりを一同に集めて記念写真を撮る。どれも工夫された作品ばかりで、先生にもお褒めの言葉をいただいた。全ての研修を終え、宿舎に戻る。

学生が話し合って決めた本日の夕食はカレーライスだ。担当者を中心に全員で手分けしての夕食づくりも、今回の活動ならではの経験だ。作業の途中で御飯が足りないことに気づき、サツドラへ買い物に行った。途中で見た夕焼けが絵に描いたように美しい。

19 時 30 分、カレーライスとホッケのすり身で夕食開始。どちらも旨い。食後には T さんお手製のチョコレートムースが登場、みんなでいただく。こちらも最高の出来で、全員がベタ褒めであった。

食後、ミーティングを行う。本日の振り返りと明日の予定の確認。事後報告に向けて、学生一人ひとりから意見を出してもらう。これも次年度実施に向けての参考資料の一部になる。ミーティング後、就寝時間までは各自自由に過ごす。女子学生は私が持参したカードゲームで大変盛り上がっていた。23 時、就寝。



## 8 月 28 日 (水)

7 時起床。眠たい顔をして起きてくる学生もいたが、みんなで協力して朝食準備。利尻富士町役場の日程で時間が 30 分繰り上がり、急いで朝食を済ませ、9 時出発に向けて準備する。

9 時 20 分、宿舎を起点にサイクリングに出掛ける。天気も回復し、一日晴れそうな気配だ。今日のガイドは利尻富士町役場職員の K さん、30 余年利尻島のガイドを務めているそうだ。K さんを先頭に縦一列になりペダルを漕ぐ。初めに夕日ヶ丘展望台へ。展望台には右にペシ岬、左にポンモシリ島が見える風光明媚なところだ。K さんの話しを聞きながら利尻の美景にうっとりする。



その後、ニシンによって栄えた袋潤に移動した。ここは漁獲したニシンを一時保管するために作られた小さな港である。利尻島の大切な歴史的遺産であり、今も往時の名残が残っている。隣の漁師小屋でニシンではなく、ウニの集荷を行っている。

袋潤を後にし、鴛泊周辺の海岸を一行になってペダルを漕いだ。風も波もなく穏やかだ。「ロナルド・マクドナルド上陸記念碑」の説明を受けた後は、姫沼に向けてサイクリングロードをひた走る。きつい傾斜は自転車を押しながらの移動だ。姫沼は原生林に囲まれ、風のない日には水面に映る「逆さ利尻富士」が見られるが、この日は雲がかかっていたため、湖面にその姿はなかった。

姫沼で一息ついたところで、またサイクリング開始となるが、下り坂のため快適だ。整備されたサイクリングロードの途中に大きな橋があちこちにあり、橋上からの眺望は素晴らしい。何度も写真のシャッターを押しながら前進する。あっという間に宿泊先の旧本泊小学校に着いた。すでに利尻富士町の役場職員が弁当を用意してくれており、宿舎内で昼食をとる。



午後からはレンタカーに乗っての島一周観光だ。

13時に宿舎を出発。最初に利尻山登山口に行き、そこから甘露泉水まで徒歩15分。途中でKさんの説明を聞きながら、利尻富士町の大自然に触れる。甘露泉水で水を汲み、美味しい水を飲みながら、ハイキングを楽しむ。

その後、利尻富士温泉に隣接する郷土博物館や利尻町立博物館を見学。オタトマリ沼では



ソフトクリームを食べて、みな一息つく。

利尻町立博物館に到着したのは陽が翳り始めた頃であった。館内には見ごたえある展示品の数々が飾られ、利尻に受け継がれる自然と海との物語を感じることができた。館長が2つの道具について見せてくれた。一つはホッケを獲る籠網。昔は籠の中に餌を入れ、その籠に入ったホッケを漁獲していたそうだ。もう一つはタコの引っ掛け仕掛けである。仕掛けの手前に赤い目印の布を巻き、タコを収穫していたそうだ。2つの道具は今の漁法とはかなり異なるもので、地元の人から寄贈されたとのこと。博物館内を見学後は、御崎灯台周辺で観光用に飼育しているアザラシを見に行く。利尻島に居ついたアザラシではなく、稚内ノシャップ寒流水族館から借りて季節限定で飼育している。学生たちは愛らしいアザラシの写真撮影に余念がない。

17時過ぎに宿泊先の旧本泊小学校に戻る。午前中のサイクリング、午後の島内観光とハードなスケジュールをこなし、学生は疲れ気味だ。宿舎に戻ってからは布団に入って休憩する者もいた。

19時30分、IさんとTさんを中心に夕食の準備をする。メニューはオムライスで、協力しながら美味しそうな一品を作っていた。少し食べる時間が遅くなったが、皆ペロリと平らげていた。このメニューは男子に好評だった。

夕食後に後片付け、ミーティング。学生の顔には少し疲れも窺えるが、体調を崩す学生もなく、表情は明るい。この日の夕方に照山教授が合流し、学生一人ひとりとの会話も弾んでいる。残りも2日、充実した活動になってほしい。



## 8月29日(木)

午前中は学校視察で、こども発達学科の学生は利尻町立仙法志小学校、英語英米文学科の学生は利尻富士町立鴛泊中学校にお邪魔した。私は鴛泊中学校に学生4名の引率として参加した。宿舎から自転車で出発。15分ほどで鴛泊中学校に到着。校門には担当の先生が出迎えてくれた。参加学生は英語教員を目指しているため、英語を中心に見学や学習支援の体験をさせていただいた。4人は戸惑いながらも、意欲的に生徒と関わろうとしていた。

2時間の授業参観・支援後に校長室に戻り、教頭先生から、本日の学校視察で得た学びを



フリートーキング。学生同士の会話は少なく、先方を意識し控えめであった。

視察後は、駕泊にある食堂「グランスポット」で昼食。ホタテカレーはボリュームもあり旨かった。

昼食後、ペシ岬へ行く。青空の下でのペシ岬は駕泊市街を一望するには最高の景勝地だ。岬は標高 92m で、途中で辛い坂道もあるが、20 分弱でペシ岬頂上に到着。頂上は照り付ける陽の光を強く感じる。記念写真を撮り、ペシ岬下まで戻った。その後、思い思いにお土産を購入。今回参加できなかった E さんとゼミ学生等へのお土産も忘れず、購入していた。

14 時 30 分に宿舎到着。午後からは漁師の K さんによる「利尻昆布」の講話、利尻富士町役場職員の IM さんによる移住についての講話と盛り沢山の内容だ。学生が全員揃い、K さんの「利尻昆布」についての講話が始まる。

利尻昆布は、日本最北の厳しい自然環境の中で 2 年かけて成長した昆布だ。主にだし昆布として利用される。味が濃く香りが高い透明な澄んだ出汁で上品な味わいが特徴である。K さんから養殖昆布についての詳しい説明を聞き、その後「花折昆布体験」を実施し、一人ひとりが作った花折昆布をお土産にいただいた。

次は、実際に島体験をして移住してきた IM さんの話を聞く。IM さんは学生時代に東京から利尻島に何度も来て、この島の自然と人情に感動し、大学卒業後に利尻富士町役場に就職している。移住に至るまでの経緯や実際に利尻島に住んで感じたことを詳細に話してくれた。IM さんの話を聞いて「もう一度利尻島にきたい」と話す学生もおり、心に残る体験講話であった。

夜は今回の最大イベントである利尻富士町との交流会である。学生もこの会を楽しみにしており、利尻富士町役場職員と協力して準備をおこなった。私は産業振興課の S 課長が早朝釣ってきたソイ・カレイを捌きながら、刺身作りに専念した。

19 時、利尻島の海産物を使ったバーベキューで交流会が始まった。どれも旨くて、飲み食いが進む。お互いの自己紹介をはじめ、利尻富士町に住んでいる人の身近な話などを聞いた。役場職員は若い人も多く、話が弾んでいた。このような交流は学生・役場職員にとって貴重な時間であることは間違いない。昨日観光ガイドをしていただいた K さんも参加し、学生からも人気者になっている。 コロナ禍で修学旅行を経験できなかった学生も多い。そんな学生たちにとって、この利尻島地域創生フィールドワークは印象深い旅になるだろうと感じた。

## 8 月 30 日 (金)

最終日。英語英米文学科の学生と照山教授は早朝の飛行機に乗るため、慌ただしく宿舎を出た。彼らを利尻空港に見送って宿舎に戻ると、既に午前中の研修講師が待機していた。最後の研修は「ホッケの蒲鉾作り」だ。利尻ポンツアーズの Y さんを講師に、ホッケを使った郷土料理体験をする。残った 4 名の女子学生が参加した。お手伝いとして前日の講師の IM さんも掛けつけてくれた。



地元で捕れたホッケを蒲鉾にして、数種類のおかずを作る予定だ。ホッケは漁師さんから購入、獲りたてのニシンまでいただき、両方の魚を調理することになった。

始めにホッケを3枚におろして、外側の皮を剥ぐ作業である。4名の学生は魚の処理をしたことがなく、Yさんに聞きながら魚を捌いていた。1匹捌くと2匹目は少し上手く捌けるようになり、4人で12~13匹の魚を捌く。釣り好きの私は魚を捌くことは日常茶飯事であり、ホッケの他にニシンも捌くと、Yさんから「早いし上手ですね」とお褒めの言葉をいただいた。全て捌き終わったところで、いよいよ蒲鉾作り開始だ。学生はすっかり流れ作業に嵌ってしまい、休むことなく調理に没頭していた。全ての料理を作り終え試食する。学生全員で作ったホッケ・ニシンの蒲鉾料理を味わい、利尻島ならではの会食となった。学生たちが自宅に戻ってから、自分で作るかどうかはわからないが、実りある郷土料理体験であったと思う。

その後荷物整理、清掃を終え、5日間過ごした宿舎を後にする。途中、御崎にある水産加工品店で昆布加工の流れ作業を見学、利尻昆布の製品を買い求めていた。その後、アンケート調査用紙を回収するため、利尻高校に立ち寄り、教頭先生やI先生との会話が利尻での最後の思い出になった。

利尻空港にはお世話になった利尻富士町役場職員が見送りに来てくれていた。学生は利尻島での体験について、職員との思い出話に弾んでいた。役場職員が2階のテラスから横断幕を掲げて、私たちに両手を振って見送ってくれる。利尻島での5日間、温かく接してくれた役場職員に心から感謝！感謝！飛行機に搭乗してもまだ手を振っている姿に、思わず涙する学生もいた。搭乗50分後には札幌丘珠空港に到着。この5泊6日の利尻島地域創生フィールドワークで得た学びが、一人ひとりの今後の社会生活で生きることがあれば良いなと期待する。



## 利尻にて 2024

札幌学院大学人文学部英語英米文学科 照山 秀一

2024年の夏、学生と利尻島に出かけた。彼らにとって利尻は初めての地であり、名前こそ聞いたことがある者も少なくなかったが、実際に足を踏み入れるのは、全員が初めてだという。

はじめ、利尻島に行くかと訪ねたとき、多くの学生が「行きたい」と答えてきたことに、私は少し驚きを覚えた。プライベートを大切にしている最近の若者たちは、友達と深くかかわることや、他者と長期間過ごすことはあまり好まないようだと思っていたからだ。しかも、旅行先に選ばれるのは、どちらかと言えば都市部ではないかと思っていた。しかし、今思えば、利尻島には、郷愁のような、惹きつける何かを感じていたのかもしれない。

利尻島は一言で言えば田舎である。島に降り立つと、そこには、現代の都会的な喧騒や流行に溢れる日常とは全く異なる静の世界があった。どこまでも続く水平線、そびえ立つ利尻富士。その雄大な自然に、学生たちは惹きつけられた。

生活に窮するほどの過酷な環境ではないにせよ、都会の便利さとは無縁の場所だ。鉄道もなければ、バスの本数も数えるほどしかない。よく見かける家電量販店や、少し歩けばいくつかのコンビニをハシゴできるといった環境もここにはない。島を一周する幹線道路でさえ、むしろ車を見かけないことの方が珍しいくらいだ。

だが、逆に言えば、それゆえにこそ、まるで時間がゆっくりと流れているかのように、人々を魅了する美しい景色や穏やか空気が日常生活の一部としてある。

朝、薄い雲が利尻山に漂い、島が眠りの名残を帯びたころ。都会では味わえぬ静けさが、ここにはある。島を歩けば、どこからともなく海鳥の鳴き声が聞こえてくる。波の音、風の音、そして草木のささやくような音。それらの音が織りなす自然のハーモニーは、都会の雑音とは全く異なる。都会では、人工的な音に囲まれ、自然の音を聞き忘れていたことに気づかされる。

島を渡る風は、時に荒々しく、時に優しい。自然相手の生活は、気まぐれな天の動きに左右される日々だが、その中に身を置くと、自然の中に自らも織り込まれているような、そんな感覚にもなる。

特に印象的だったのは、夕暮れの海だ。燃えるような赤色で染まった空が利尻山を覆い、水平線に沈みゆく夕日は、まるで絵画のようだ。その光景を、学生たちは息をのんで見つめる。都会では、このような圧倒的な夕焼けを見ることは難しい。

夜の帳が降りるころ、次第に灯りゆく家々の小さな明かりが、闇をかすかに照らす。それは都会でみる光の洪水とは違い、ただそこにあるべきものとして、静かに息をする。

そんな、決して便利とは言い難いところだが、不便を不便と思わせぬ何か、ここにはある。便利さの外にあるものは何か。少しだけ耳を澄まし、自然の声を聞き、その鼓動に心をあわせてみる。

人を選ばぬ、来る者を拒まず、去る者を追わない、人々の懐の深さもまた、何事も受け入れる自然そのものだ。人の醸し出すあたたかさや、都会では得にくい人との繋がりも、学生たちの心を深く打つ。

ところで、日本では、近い将来、多くの地方都市が人口減少により消滅の危機にあるとされ議論を呼んでいる。しかし、まずは「人口減少がなぜ問題なのか」という根本的な問いを考えることが重要だ。

日本は狭い国土に多くの人々が住んでいる国である。可住地面積を比較すると、ドイツやイギリスは日本の約2倍、フランスは約4倍、アメリカは50倍以上の広さを持っている。それに対し、人口は、イギリス、フランス、ドイツが日本の半分程度、アメリカでさえ日本の約3倍弱に過ぎない。

可住地面積と人口を比べた、可住地面積1k㎡あたりの人口密度でみると、イギリスとドイツは約300人、フランスは約150人、アメリカは約50人である。対する日本は約1800人。例えば、江別市でも約700人、それでもドイツやイギリスの倍以上、札幌市中央区に至っては可住地面積1k㎡あたり約1万人となる。一方、利尻島は約80人程度、スウェーデンとほぼ同じだ。このように見ると、日本の人口密度は世界と比べてもかなり多いことがわかる。

そう考えると、日本の人口が減ることが一概に危機なのか。人口の多寡が豊かさなのか。果たして、人口が増え続ける社会、自然を切り拓きモノを造り続ける社会、人口が増え続けることを前提とした日本の社会制度などは、本当にあたりまえなのか。どこかで一度立ち止まり、問いかけてみることも必要ではないか。

都会の生活は魅力的で、時に多様な選択肢を与えてくれるのかもしれない。しかし、モノへの執着や成果を誇る生活、「映え」を競い合う生活は、心のゆとりをなくし孤独感や焦燥感、劣等感を生む。

都会の雑踏の中に身を置くとき、ふと故郷の風景が目には浮かぶことはないだろうか。緑豊かな自然、穏やかな人々の暮らし、それらは都会の光とはまた違った輝きを放つ。言葉にすることは難しいかもしれないが、シンプルながらも豊かな生活を送る中で得られるもの、それは都会では決して味わうことはできない。

競うことより、どう生きていくのかを考えることが、心をより豊かにし、さらに素晴らしい人生を送るための礎となるだろう。

## 5. 利尻島地域創生フィールドワークに参加して

### 利尻島 地域創生フィールドワーク

D220415 今井柚花

利尻島でのフィールドワークは私にとってとても貴重な体験になりました。自然豊かな環境に触れたり、利尻島に長い間住んでいる方や、別の地域から移住してきた方のお話を聞いたことで多くの学びがありました。

私が一番印象に残った活動は仙法志小学校視察です。小学校では、授業見学と簡単な授業補助を行いました。2時間目から清掃まで活動させていただいたため、休み時間の遊びや給食まで一緒に過ごさせていただきました。児童たちはどの子もとても素直で、素敵な児童ばかりでした。授業の邪魔にならないかなどの不安もありましたが、その不安がなくなるくらい児童たちから話しかけてくれ、分からないことを教えてくれて、優しくてあたたかい児童と教職員のみなさんのおかげで楽しく実りのある小学校視察になったと感じます。授業の内容が興味深かったです。特に自然を利用した授業は、利尻島でしかできない授業内容だと思い、児童は私たちに比べて貴重な探検ができていないのではないかと思いました。そして、複式学級というのも初めて見ました。調べている段階では、同じ教室で違う学年が学習することは本当に可能なのかと思っていましたが、実際に視察して、複式学級は教師の方々の頑張りと児童の自学自習の力で成り立っているのだと考えました。人数が多いとそもそもできないと思いますし、メリットもそこまでないかもしれませんが、少人数の学校で行うのは効率もいいし、児童に自学自習の力も身につくのでメリットがあるのではないかと思います。

また、利尻島の町役場の方々が今回の「利尻島 地域創生フィールドワーク」に協力してくださったため、その方々との交流も印象に残っています。私たちが利尻島に着いたときから出迎えてくださったり、いろいろなことを教えてくれたり、体験させてくださったり、私たちが札幌に帰るときも見送ってくださって、最初から最後までお世話になりました。町役場の方々の協力がなければ、ここまで充実したフィールドワークは実施できていないと思うため、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の利尻島での活動はなかなかできないことだと思っていて、その活動に参加できたということはとても貴重なことだと感じますし、私の中ですごく思い出に残る出来事になりました。また利尻島に行きたいと思いますし、利尻島の皆さんにお会いしたいです。

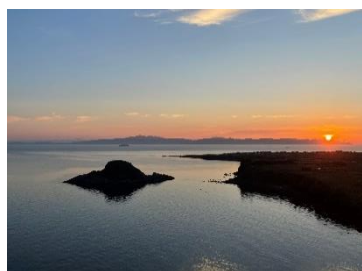




## 利尻島での思い出

D220423 橋詰 多絵

私は利尻島へ行った項目を3つに分けて話したいと思います。1つめは、小学校と高校訪問です。小学校は複式学級の学校でした。全校生徒の人数が少ないため、掃除や休み時間はみんなが関わるので、縦の繋がりが強いと感じました。そして、児童は初めて会った私たちに対して、優しく話しかけてくれて、すぐに仲良くなれて良かったです。短い時間でしたが、複式学級の授業参観や休み時間に遊ぶことができ良かったです。高校訪問では、大学の紹介とレクリエーションをしました。大学紹介では、大学に興味のない生徒が多くいたため少しでも大学の魅力を伝えられるように工夫して紹介しました。レクリエーションでは、フルーツバスケットと借り人競争をしました。高校生が楽しんでもくれる遊びを考えるのは難しかったですが、楽しんでもくれて良かったです。また、仲を深めることができ良かったです。2つめは様々な島体験です。島体験は、ウニむき体験や海藻おしば体験、郷土料理体験、花折体験をしました。この中で印象に残っているのは、海藻おしば体験と郷土料理体験です。海藻おしば体験では、海藻と押し花を使って、キーホルダーを作りました。世界に一つだけの可愛いキーホルダーを作ることができて良かったです。押し花は、施設の人が一つ一つ採って、押し花にしているためか、色鮮やかで形も綺麗でした。郷土料理体験では、大量のホッケを捌いて、揚げ蒲鉾やホッケのから揚げ、大葉とチーズ焼きにしました。私は、魚の生臭さが苦手ですが、利尻島の魚は生臭さが無く、身がしっかりとしていて、とてもおいしかったです。また、魚のアレンジがこんなにもあることに驚きました。とてもおいしかったので、是非、他の人にも作ってみてほしいと思いました。3つめは、サイクリングです。私たちは、利尻島をサイクリングで巡りました。雨の予報でしたが、とても晴れて、良い天気の中サイクリングができて良かったです。サイクリングは、坂道を登ったり、長い距離を走ったりするのがとても大変でしたが、綺麗な景色を見ることがや利尻島の歴史を知ることができて良かったです。私は、利尻島へ初めて行って分かったことがあります。それは、利尻島の魅力は、利尻島へ実際に行った人にしか分からないということです。私も利尻島へ行く前は、海が綺麗で、非日常を味わえるだけかなと思っていました。ですが、利尻島へ行ってみると、それだけではなく、人の温かさや魚の美味しさに気が付くことができました。また、これだけでなく言葉では言い表せない魅力に気が付きました。この言葉では言い表せない気持ちを、利尻島へ行ったことがない人たちに行ってみて味わってほしいと思います。





## 利尻島で得たもの

D220237 高松未菜



大学三年生の夏。先生に「利尻島行ってみない？」と聞かれたことをきっかけに地域創生フィールドワークは始まりました。積極的に人と深く関わることを疎かにしていた私が、人と関わることの素晴らしさに気づき、利尻島へ行ったことで人と関わる中での意識を変えることができました。そんな変化をもたらしてくれた利尻島の魅力を少しでも伝えられたらなと思います。

・私達は、利尻島にある小学校「利尻町立仙法志小学校」で授業見学、簡単な補助などをさせていただきました。仙法志小学校は、児童数 13 名の複式学級です。札幌では複式学級は少なく、私は複式学級のことも詳しくは理解ができていませんでした。ですが、授業見学をさせていただいたことで、一人の先生が一つのクラスの中で 2 学年同時に教えなくては行けないなど教師の大変な面や、他学年との交流が多く、一人ひとりの児童に目が行き届きやすいなどの複式学級だからこそその魅力も知ることができました。児童が 13 人しかいないため、休み時間では学年関係なく一緒に遊んでいたりと、掃除も学年関係なく班が組まれています。高学年は、低学年に教える力が付き、低学年は、そんな高学年を見てお手本とします。私は、実際に現場を見せていただいたことで、複式学級の先生もやってみたいと視野が広がりました。私たちを温かく迎え入れ、休み時間に一緒に鬼ごっこをしてくれた子どもたちに感謝の気持ちを忘れずに、今後もっと視野を広げていきたいと思いました。

・私たちが利尻島についた日の夜に、利尻富士町役場の方々に準備していただき、交流会が開かれました。利尻島の観光の話や、島に住んでいるからこそわかる事などのお話をさせていただいたことによって距離を縮めることができました。最終日の夜にも交流会が開かれました。数日前に出会ったとは思えないほど私たちの距離は縮まっていて、別れの時にはたくさん涙が出ていました。私たちがこうしてプロジェクトを成功させることができたのも、利尻富士町役場の皆さまをはじめとしたたくさんのご支援があったからこそです。人と人の繋がりや、優しさ、温かさをこんなに感じたのは人生で初めてで、本当に幸せな時間でした。

・私が利尻島で一番得られてよかったと思えるのは、「人との繋がりです。」生まれも育ちも札幌でどこにも繋がりが無い私にとって利尻島に住む方と繋がりをもてたこと、大好きな人たちができたこと、大好きな場所ができたことは、私の人生の宝物です。

目の前にあるチャンスやきっかけを逃さず行動することは自分の人生のスキルを上げてくれます。きっかけを逃さず飛び込んでみるのも悪くないかと、今回のプロジェクトを通して思いました。



## 利尻島での思い出

D220377 金澤 瑞姫

令和6年8月25日から8月30日の6日間で利尻島に行きました。利尻島での体験を通して、北海道の新しい一面を見ることができたと思います。

1日目は、移動日で、約8時間かけて利尻島へ出発しました。乗り物酔いを忘れるほどワクワクでいっぱいでした。

2日目は、利尻島の温泉に行き、宿舎では利尻富士町役場主催の交流会がありました。利尻島に温泉があることを知り、移動で疲れた体にはとても温まる場所でした。交流会では役場の方と島の話に触れ、翌日からの研修が楽しみになりました。

3日目は、利尻高校の視察と、ウニ剥き体験、海藻おしば体験をしました。利尻高校の視察では、利尻島唯一の高校に行くことができ、貴重な活動となりました。生徒同士の会話からほとんどの人が顔見知りであることを改めて実感しました。ウニ剥き体験は私にとって初めての体験で、ウニにはオスとメスが存在していることを知り、味もオスとメスで違うということを知りました。おしば体験では、海藻を使ってキーホルダーを作りました。同じ材料を使って作りましたが、出来上がりが違い、個性が出てとても良い体験になりました。

4日目は、島内での自転車観光です。ちょうど夏本番だったので、とても心地よいサイクリングになりました。道中は坂道が多く、山登りの場面もあり、体力的にきついところがありました。とても良い思い出になりました。

5日目は、仙法志小学校の視察です。島の子どもたちと出会い、共に遊んで、給食を食べると素敵な思い出になりました。仙法志小学校の子どもたちは人数が少ないため、複式学級でした。複式学級は児童があまり学力的にも育たないのではないかと思っていましたが、見学してみると、担任の先生が他の学年の授業をしているときは児童が自主的に学習に取り組んでおり、札幌の小学校よりも児童が自立していると感じました。小学校視察を通して、北海道の教員になろうと強く決めることができました。

6日目は、郷土料理体験をしました。自分でホッケをさばいてさつま揚げやけんちん汁などを作りました。ホッケはその日に取れた新鮮な魚を使っており、とても貴重な体験をすることができました。私は自分で魚をさばくこと自体が初めてで、3枚おろしがとても難しかったです。魚もつい先ほどまで生きていたのかと思うと、「ごめんね」「ありがとう」と言いながらさばいていました。食のありがたみを改めて実感しました。

全体を通して、私にとって利尻島の体験はとても貴重な体験になりました。利尻島の人の温かさを直で感じたり、自然あふれる景観を自転車で颯爽と駆け抜けたりと、利尻島には札幌とは違う魅力がたくさん詰まっていると感じました。なかなか自分で行くことがない場所だったので、今回「地域創生フィールドワーク」を通して、利尻島に行くことができ本当に良かったと思います。



## 利尻島で感じたこと

人文学部英語英米文学科 L220048 岡田 朝日

今回利尻島に行かせてもらい、多くの方々と交流し、貴重な学びを得ることができました。中学校、高校と見学させてもらった際には、生徒たちと様々な会話を交わし、彼らの純粋さ素直さを強く感じました。

中学校では先生に指摘された際に素直に受け入れて改善する姿や、授業中に質問する姿がとても印象的でした。自分たちの学校ではあまり見られない光景だったため、大きな驚きとともに学ぶ姿勢の大切さを改めて考えさせられました。

高校では、クラスが少人数ならではの温かい雰囲気や、生徒同士の絆の強さを感じました。私が通っていた高校は生徒数が多かったため、少人数ならではの良さを直接感じることができ、とても新鮮な体験でした。

また、サイクリングを通じて島の魅力を肌で感じる事ができました。では、普段の生活では見ることのできない壮大な自然や、海のすぐそばを走る道からの景色には心から感動しました。島の風を感じながら、自転車を漕ぐたびに利尻島の美しさを実感しました。

さらに役場の方々の温かさと親しみやすさに感動しました。初めて訪れた僕たちを温かく迎え入れてくださり、交流会でも様々なお話をしていただき、心から楽しむことができました。初日の交流会では緊張していましたが、最終日にすっからは打ち解け、別れるのが本当に寂しく感じるほどでした。帰るときには空港まで見送りに来てくださり、飛行機に乗る直前まで「まだ利尻島にいたい」と強く思いました。

今回の研修を通じて、僕は利尻島が大好きになりました。そして、また必ず訪れたいと考えています。将来、教師として再び利尻島に行くことができれば、それは素晴らしいことだと感じています。この研修を提案してくださった先生や、温かく迎え入れ、サポートしてくださった利尻富士町役場の方々には心から感謝しています。この感謝の気持ちを忘れず、今回の学びをこれからの大学生活や将来に活かしていきたいです。そして、今回出合った方々とのご縁を大切に、また利尻島を訪れる日を楽しみにしています。



## 利尻島での生活と気づいたこと

L220455 佐藤 遥

今回の利尻島地域創生フィールドワークでは、ペシ岬やボン山といった「自然」の魅力や、豊富な海産物などの「食」の魅力、そしてそういった環境で生活する島民の方々の「人柄」の魅力を知ることができました。出会えた役場の方々や、中学校・高等学校の生徒さんとの交流を通して、普段の生活の中では絶対に味わうことのできなかつた、特に教職を志す我々にとって、大変貴重な経験と学びを得ることができました。

フィールドワークでの宿泊は、利尻富士町役場の方々に用意していただいた本泊（もとどまり）小学校でさせていただきました。廃校舎を地域の防災や交流などを目的とした施設として活用する場所になったものです。その一階建ての校舎は、中庭を中心に一周できる造りとなっていて、自分が見てきたものとそのイメージが違い、不思議に思いました。特に、当時のまま残る体育館はどこか懐かしく、初日は一同高揚していました。

滞在中に自炊する際は学校の調理場を使用し、食材も島のスーパーやコンビニで何不自由なく揃えることができました。この事はやはり大きく、事前学習で知っている部分もありましたが、実際に行くとドラッグストアやホームセンター、そしてゲーム売り場などもあり、本土とはほとんど差のない生活が送れることに驚きました。確かに、映画館などの娯楽施設はありませんが、それ以上の自然と人の魅力にあふれていました。

これに対して、町役場の方々や視察した学校の生徒の方々のお話を聞いていると、「牛肉は滅多に食べられない」だとか「冬になると本土からの物資が届かないことがあり大変な時もある」ということも知りました。しかし、島ではそれらの問題への対策（食料を事前に冷凍保存しておくなど）や、豊富な海産物（ウニやホタテ、そして昆布など）、そしてそれらを、おすそわけするご近所の家々間での温かい交流があることも、この利尻島ならではの生活の一つであり、素敵な生活スタイル・魅力だと思いました。

島内サイクリングや海藻おしば体験など、離島ならではの楽しみをとことん堪能し、二度の役場の方々と温かい交流会を経て、日々のストレスや悩みが嘘のように浄化され、利尻島の「本当の力」を体感することができました。このこともあり、最終日前夜、交流会の終わりとともに自然と涙がこぼれてきました。今思えば、本当に自分の家よりも家だったと感じましたし、数日しか滞在できなかつたことが悔しくなるような思いでした。個人的に嬉しかったのは、手料理をふるまった際の役場の方々に褒めていただき、こういった交流をまた体験したいなと思いました。

今回はもっともっとある利尻島の楽しみ方のすべてを体験することはできませんでしたが、釣りやウニ取り体験など、こういったプロジェクトに関わらず、また個人でも行って更なる魅力を発見したい、そう思える場所でした。また、本プロジェクトで得た経験・学びを将来に生かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

## 利尻島フィールドワークに参加して

L220552 井上葵

今回、照山先生の方から利尻島についてのお話をゼミ内で共有していただき、夏休み中の思い出作りみたいな感覚で軽い小旅行に行くようなものだと思っていたので二つ返事で行くことを決めました。その後、栃真賀先生から今回のフィールドワークの概要や学生発案プロジェクトというものの一環であること、大学内で審査会をやらなければいけないことなど詳しい話を聴き正直な話、とんでもないものに参加してしまったと思いました。そこからは学生発案プロジェクトの審査会でどんな内容を話すかについての会議や、審査会のための情報収集やプレゼン資料作成だったり、気づいたらプロジェクトのサブリーダーになっていたりと予想もしていなかったことが次々起きていき、考えることがどんどん増えてしかも行ったことのない場所に行くということも相まって行く前はずっと不安しかありませんでした。しかし、いざ行ってみるとそんな不安もなくなるぐらいとてもいい場所で、ずっとここにいたいと思えるほどにとっても素敵な場所でした。宿泊場所の提供や観光の際のガイドだけではなく、バーベキューを企画していただいたり様々な手助けをしてくださり、すべての活動に協力していただき本当にありがたかったです。

今回のフィールドワークでは学校視察もさせていただき、利尻高校と鴛泊中学校の見学をさせていただきました。利尻高校の方では最初にフィールドワークの概要について簡単に説明を行ったあと、レクリエーションを通して生徒の皆さんと交流しました。楽しそうに参加してくれる姿を見ることができてよかったです。鴛泊中学校では実際に授業見学をさせていただき、英語では実際に授業に参加させていただきました。授業内で ICT が活用されており、自分は「行かなきゃわからないことを探す」を今回の一つの目標としており、実際にどんな活用がされていて、活用方法が生徒にとっていい効果をもたらしているかなどを実際の現場を見て考えることができたため、目標の大部分はクリアすることができたのかなと思います。ICT の活用現場を見させていただく機会は殆どないため、今回実際の現場での活用方法を間近で見ることができたのでとてもいい経験になりました。

このフィールドワークで自分自身色々考えることが増え、行く前日まで不安がずっと拭いきれていなくて、でも終わってみるとそれも含めてすごくいい経験になったと思います。自分の中でも一つの選択肢で終わっていたものが利尻島の方々と交流する中でどんどん広がり、利尻島で過ごす日々の中で今までにない様々な経験をすることができ、本当に行ってもよかったです。報告会の際にもお伝えさせていただきましたが、このフィールドワークを今回限りで終わらせるのではなく今後も継続できるよう、どんな形でもいいから後輩の学生たちに知ってほしいです。また、今回のような話がもし先生の方から共有してもらったら不安もあると思いますが、まずは参加してみて後のことはそれから考えてみるのもありかなと思います。

最後に、今回このフィールドワークに協力して下さった皆様、本当にありがとうございました。

## 地方創生フィールドワークを振り返って

L220331 酒井啓達

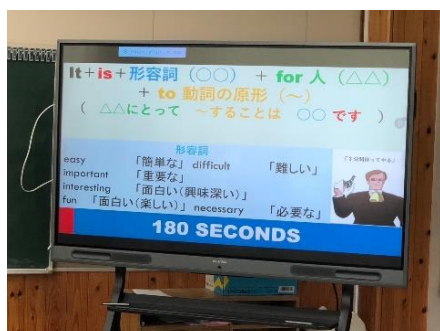
私は五日間、利尻島でフィールドワークを行いました。島で経験した自然や文化に触れる貴重な経験ができたことは、非常に思い出深いものとなりました。訪問前は、島での生活に少しばかり不安を感じていましたが、実際に訪れてみると、海と山に囲まれた美しい自然を目にし、心温かい島民たちと過ごした日々は忘れられない五日間となりました。

私が一番印象に残っているのは、篤泊中学校を訪れた時のことです。学校視察では、自分も活動に参加し、子どもたちの学びに対する真剣な姿勢や地域との結びつきを強く感じました。私が中学生のころにはなかったICTをふんだんに活用した授業構成になっており、今後の授業作りのヒントを得ることができました。普段、都会に住んでいる私にとって、地域に根差した教育活動は新鮮で非常に感銘を受けました。

もう一つ印象に残っているのは1日目と4日目の島の人たちとの交流会だと思います。島の方々と直接お話しすることで、島の生活や文化についていろいろ話を聞くことができ、より親睦を深めることができました。なかには、私達と同じ年代の方も来ており、自分と共通する部分と、島生活ならではの魅力をたくさん教えてくれました。利尻島に初めてきた私にとってはどれも興味深い話ばかりで、非常に貴重な体験となりました。

利尻島から戻った後も、私たちは島の魅力をPRするお手伝いをしたいと思い、発寒イオンで行われた「離島フェア」にボランティアとして参加しました。このイベントは北海道の離島である利尻島、礼文島、奥尻島、天売島、焼尻島の人たちが各々イベントブースを設け、島の特産品を販売したり、様々な体験コーナーなどを用意し、来場者に島の魅力をアピールしました。利尻島だけでなく、他の離島の様子を知ることができました。

今回のフィールドワークを通じて、利尻島の魅力を多く感じる事ができ、島民との交流も大変楽しいものでした。この経験は、私にとって大切な思い出となるだけでなく、以前よりも僻地での教育に強い魅力を感じるようになりました。なかでも一番強く感じたのは、「人の温かさ」だと思います。最初、島に到着しフェリーを降りると、役場の方が私達を出迎えてくれました。また、帰りの空港でも、見送りに来てくれました。滞在中、私は何も不自由だなど感じることはなく、むしろここでの生活の方が楽しいと思えるほど、利尻富士町役場の皆さんは手厚いおもてなしをしてくれました。こういった人とのつながりは今後も大事にしながら生活したいです。そして、また利尻島に行くことができれば、今度は自分が教員として利尻島の子供たちに学ぶ楽しさや、今回のフィールドワークで一番感じた人の温かさを教えてあげたいです。そして、利尻島に住んでいる方が私たちの住む札幌を訪れた際には、私達が受けたような温かなおもてなしをしてあげたいです。



## 6. 利尻島地域創生フィールドワークの事後活動

### (1) 離島フェアの開催概要

1. 催事名称 2024年度利尻島・礼文島・奥尻島・羽幌町をもっと知ろう！  
食と観光PR in イオンモール札幌発寒
2. 開催日時 2024年11月15日（金）・16日（土）・17日（日）  
10：00～18：00
3. 開催場所 イオンモール札幌発寒 1F すすらん広場・1F 中央エレベーター前
4. 主催 利尻富士町・利尻町・礼文町・羽幌町・奥尻町
5. 後援 北海道
6. 協賛 (株)北海道エアシステム・ハートランドフェリー(株)・アイランドフェリー(株)・羽幌沿海フェリー・札幌学院大学
7. 協力 イオン北海道株式会社
8. 開催内容
  - ・利尻富士町・利尻町・礼文町・羽幌町・奥尻町の観光や自然などの認知拡大を図り、直接的な誘客につなげる。
  - ・各自治体とのパイプを強化して、食の開拓につなげていく。
9. 開催内容
  - ①観光パネル展示
  - ②観光ブースの設置（各自治体）
  - ③協賛企業ブースの設置
  - ④観光PR&クイズ大会の開催
  - ⑤各町キャラクター登場など
10. 運営
  - ・事務局：イオン北海道
  - ・体験イベント運営：主催者・協賛社
  - ・全体運営・管理：(株)北日本広告社



## (2) 当日の参加活動

今回の離島フェアには、イオン北海道株式会社から声を掛けていただき、イオンモール札幌発寒で開催し、ボランティアとして参加した。

ボランティアの目的として、①利尻富士町・利尻町でお世話になった方々への島 PR、②北海道道内の離島の現状を把握する、③利尻島地域創生フィールドワークの振り返り等学生発案プロジェクトの目的を達成するための事業としての札幌市内での活動である。

開催期間は3日間であったが、学生の授業参加等制約される部分もあり、16日(土)～17日(日)の2日間、各離島のボランティアとして活動した。

当日は各離島に1～2名を配置し、各町担当者の指示のもとで、活動することになった。各町役場職員からは島のキャラクターが持ち込まれ、その中に入って活動する仕事にも協力した。キャラクターの中に入る活動は、初めての学生も多く、最初は戸惑う場面も見られたが、徐々に要領を把握し、意欲的に活動することができた。

また各島の体験コーナーは、参加者が理解できるように体験の流れを説明したり、体験作品を自ら作成するなど、細かな活動までしっかり取り組む姿勢が印象に残った。

地域創生フィールドワークでは利尻島内の実情を把握してきたが、今回の離島フェアで道内の離島を知ることにより、他の島にも是非行ってみたいと話す学生もいた。

離島フェアでは、北日本広告社さんに「札幌学院大学 利尻島地域創生フィールドワークを振り返って」の展示パネルを作成していただき、本学のPRを兼ねることができた。以下に離島フェアの様子を紹介する。



## 7. 資料集

### (1) 利尻島体験活動（利尻町立仙法志小学校）

利尻町立仙法志小学校への訪問の様子

[https://senhoushisho.edumap.jp/blogs/blog\\_entries/view/7/3972d5655f5f2504119ebecac39f11d9?frame\\_id=41](https://senhoushisho.edumap.jp/blogs/blog_entries/view/7/3972d5655f5f2504119ebecac39f11d9?frame_id=41)

#### 大学生訪問

投稿日時：08/29 14:13  校長

将来先生を目指している札幌学院大学の学生4人が仙法志小を訪問し、授業参観や簡単な指導補助等を行いました。

2時間目から昼休み後の清掃まででしたが、子どもたちの素直さと明るさにとても感心していました。





## (2) 利尻島体験活動（利尻富士町立鷺泊中学校）

利尻富士町立鷺泊中学校への訪問の様子

<https://rishirifuji-town-oshidomari-junior-high-school.edumap.jp/>

### 札幌学院大学地域創生フィールドワーク

投稿日時 08/29 13:53  教職

本日8月29日(木)、札幌学院大学生の4名と教授が本校に教育視察に来院しました。大学側は、離島での様々な体験や学校訪問等を通して、今後の学生生活や卒業後の指針となるような学びを得ることを目標の1つとして来校してくれました。本校も普段接することがない大学生との交流を通して刺激を受けるチャンスとOKしました。その様子を写真でご覧ください。



最後に大学生一人一人に感想を述べてもらいました。授業でのICTの活用方法や少人数での授業方法など様々な場面で先生方の実践が勉強になったということでした。4名の大学生は全員教員志望(英語)ということもあり、今回の教育視察が良い経験になり、益々先生になりたい気持ちが強くなってこれ幸いです。



(3) 利尻島体験活動（北海道利尻高等学校）

日刊宗谷 2024. 9. 3 （宗谷新聞社） 利尻高等学校への訪問の様子

第3種郵便物認可

日

# 離島の生活や教育

札幌学院  
大3年生  
利尻島内で交流体験

【利尻富士・利尻】札幌学院大学の3年生8人が8月26日から30日

まで、利尻島内で離島交流体験を行った。各種活動を通じ、離島生活の魅力や教育環境等を学ぶ有意義な時間を過ごした。

同大学では、以前から離島である利尻島で学生達が様々な体験等を経て学ぶ時間を設けたいといった考えがあり体験を初めて企画。また、島内の歴史や文化を広く伝えることなどを目的に活動する利尻しまじゅうエココミュニケーション（事務局・利尻富士町産業振興課）でも、こうした事業を企画したい思いがあり、今回の体験活動ではエココミュニケーションが実施主体となっている。同大学のことも発達学科、英語英米文学科で学ぶ学生8人や引率

教授は、26日にフェリーで来島。この日は島内観光等を満喫した。

27日には、利尻高校の1・2年生34人を前に大学での学びについて紹介。学生達は、各学科での学習等について触れながら「将来の目標に迷いがある人達は、大学へ行くことで将来の道は広がる」とアドバイスした。

このほか、28日から最終日の30日まで、島内の観光地を巡り魅力を把握。島内小中学校で教育活動の視察。利尻島郷土料理など様々な体験等で、学生達は貴重な経験を積んだ。

同大学では、来年以降も利尻島で継続的に交流体験事業を行う考えで、学生生活や卒業後の目標等を見つめる機会にしたいという。また、エココミュニケーションでは、利尻島に興味

を持つ学生が増える機会になればと願う。

（原拓弥）



利尻高校生徒と交流した札幌学院大学の学生達

## (4) 利尻島地域創生フィールドワーク事後報告資料

2025/1/17

令和6年度 学生発案プロジェクト

### 利尻島 地域創生フィールドワーク

参加者：  
D220237 高松洋平 D220377 金澤陽希 D220423 嶋田多穂 D220415 今井純志  
L220048 岡田朝日 L220331 酒井啓彦 L220455 成澤涼 L220552 村上美

1

### プロジェクトの目的

- ▶ 人口減少の実態と、地方創生について知る
- ▶ 離島（へき地）の、学校教育の現状と課題を知る
- ▶ 体験活動や町の人達と交流する
- ▶ 現地の担当者の方と地方創生プランを考える
- ▶ 事後、島での調査結果や考えたことの報告をする
- ▶ 今後、町に協力できることを提案したい
- ▶ 高校生との交流の中で札幌学院大学について興味を持ってもらう
- ▶ この学びを今後の学生生活に活かし、社会人としての意識を高める

2

### なぜこのプロジェクトを考えたのか

- ▶ ゼミで、自分でテーマを決め、読書をしている
- ▶ これまでも、ボランティア、学校訪問などを経験
- ▶ 新しいことを知り、知らない場所に行くだけでも、新しい発見がある
- ▶ 学生時代に、もっといろいろな体験し、自分の視野を広げたい
- ▶ 教育、地域での生活、産業など、生まれ育った場所以外の人たちとも交流してみたい

→利尻島のお話があり、興味を持った

- ▶ 将来に向けて、どのように考え、何ができるのかを考えたい
- ▶ そして、その考えを、自分の言葉で伝えることができる人になりたい

3

### プロジェクトの概要

- ▶ 学びたいこと、知りたいこと、考えたいこと

1. 利尻島や離島のこと
2. 島の魅力
3. 人口減少の実態と地方創生の取り組み
4. 学校教育のこと（へき地教育、小規模校、小中一貫教育など）
5. 大学生が手伝えることはないか
6. 地域の魅力をどのように伝えるか

4

### 利尻島一周観光体験

- ▶ ベシ峠観光  
標高は93mと低いですが、急な階段を登るため大変でした。頂上から見る景色はとてきれいでした！
- ▶ 洞内大橋  
全長193mの自転車道です。とても綺麗な景色が魅力的でした！
- ▶ 泉の役割  
北海道産に認定！採掘したニシンを一時保管するためのもので、現在も使用されています。

5

### 利尻町立博物館

- ▶ 利尻島ができてからの生活の歴史や、利尻島にはどのような藝物がいたのかを知ることができます。
- ▶ 利尻島は、主に約20万年前〜約1万年前にかけて利尻火山の活動によって出来上がった。
- ▶ 遺跡が多くあり、旧石器時代から人がいたとされている。

6



### 海藻おしぼ体験

「島の駅利尻 海産の里・利尻」

- ▶ 利尻島で最も古い建物を活用したカフェ
- ▶ 浜辺に打ち上げられた海藻や利尻島のお花をおしぼにする。(海と地 環境保全の啓発活動)
- ▶ 時期によって海藻やお花が変わるため、おしぼの材料も変わる。



### 郷土料理体験

「てづくりしり」

- ▶ 利尻島でその日にとれた新鮮な魚を使って郷土料理を作ることができる。初めて魚を調理してみ、魚のありがたみを改めて感じる事ができた。
- ▶ 「ホッケ」を使った郷土料理づくり
- ▶ ホッケを蒸してさつま揚げや漬物、チーズと大葉と一緒に焼く。等



7

### ウニ採り体験



- ▶ キタムラサキウニと呼ばれるウニを刺した。オスとメスで身の触感と味が異なる。
- ▶ 利尻昆布を食べて買ったため、他のウニと比べても別格の美味しさだった。

8

### 花折体験

- ▶ 利尻昆布を丸々一枚を梱包する作業
- ▶ 折りたい部分を温め、割に収まるよう工夫する



9

### 北海道利尻高等学校

- ▶ 島で唯一の高校
- ▶ 生徒数 60名
- ▶ 大学進学希望者が少ない



- ▶ 大学の紹介 (学科別)
- ▶ レクリエーション
- ▶ 質疑応答

10


### 北海道利尻富士町立鷺泊中学校



- 在籍生徒数計 34名、教員数計 17名 (2024年度現在)
- 教師・生徒間の密接なコミュニケーション
- ICTやAI (Chat GPTなど) の積極的な活用

11

### 利尻町立仙法志小学校



- ▶ 児童数 13名
- ▶ 複式学級  
→ 2つ以上の学年で構成される学級
- ▶ 一方の学年が直接指導を受けている間、もう一方の学年は課題学習  
→ 自学自習の力が必須となる。
- ▶ 指導補助、授業見学

12



利尻町立  
仙法志小学校

- ・授業見学
- ・掃除
- ・給食
- ・歯磨き

13

利尻島への移住者の講話

▶ 利尻富士町役場職員  
岩垣 みなみ さん

移住を決めた理由

- ▶ 周りの人たちの温かさ
- ▶ 春夏秋冬を楽しめる
- ▶ 島全体が遊びのフィールド
- ▶ ストレスが少ない

14

交流会1  
自己紹介やそれぞれの生活など

15

交流会2

- ・同世代の方々との交流
- ・なかなか聞けない話も

16

離島フェア

- ▶ 各離島のパンフレット配布
- ▶ 体験コーナー
- ▶ 着ぐるみ体験

- ▶ 他の離島の魅力の発見
- ▶ 人の温かさ
- ▶ なかなか味わえない体験

17

18



### アンケート調査の結果

1. 利尻島から出て他の地域で生活したいか

はい1人 いいえ6人 その他1人

- ▶はいと答えた人：島内では活動制限があるため、制限されない場所でのびのびと生活したい。
- ▶いいえと答えた人：生活基盤があるため現状で満足。仕事のやりがいがある。利尻の自然が大好きだから。

19

### アンケート調査の結果

2. 利尻を代表する産業は何か

▶水産業 

▶観光業  →後ほど、利尻富士町役場の方からお話していただきます。



20

### アンケート調査の結果

3. これから力を入れたい、又は入れるべき産業は何か

- ▶漁業を中心とした観光業などの複合産業
- ▶福祉（介護、保育）
- ▶冬季における観光コンテンツの育成と観光客の受け入れ体制の向上
- ▶滞在型観光の受け入れ強化
- ▶飲食業
- ▶個人向けのアクティビティ
- ▶一次産業から六次産業へ

21

### アンケート調査の結果

4. 利尻島の魅力や取り組みを全国的にPRすべきか

はい8人 いいえ0人 その他1人

OPRしたいこと

- ▶リピーターの定着
- ▶風外と交通が不便ではない（空港がある）など
- ▶海と山が近く、アクティビティが豊富
- ▶北海道遺産がある
- ▶サイクリング・・・大学サークルの誘致をしたい
- ▶本泊小・・・大学生誘致
- ▶自然環境、食の豊かさ
- ▶代表的な観光地以外の紹介 ⇒郷土料理など
- ▶SNS管理ができる人がいない
- ▶生活環境の良さ、自然景観

22

### アンケート調査の結果

5. 利尻島に住んでいるメリットとデメリット

メリット

- ▶町の機能がコンパクト
- ▶海と山が近くアクティビティが豊富
- ▶高級食材が手に入りやすい
- ▶職場が近い
- ▶ストレスフリー
- ▶様々な遊びがある（ウィンタースポーツなど）
- ▶自然環境の良さ、大自然が生活の中にある
- ▶お金がかからない
- ▶四季を通じた自然の素晴らしさ

23

### アンケート調査の結果

5. 利尻島に住んでいるメリットとデメリット

デメリット

- ▶悪天候時の交通障害
- ▶医療が行き届いていない
- ▶肉と野菜が微妙
- ▶物流のコスト、買い物不便
- ▶気軽に旅行できない
- ▶娯楽が無い
- ▶冬の厳しさ

↓

全体的に医療に関する不満が多かった

24



### アンケート調査の結果

6. ICTの活用はどれくらいか

- ▶町の支援により、一人一台提供
- ▶調べるだけでなく、発表や自己表現ツールとして活用



25

### アンケート調査の結果

7. 利尻島の人口増加に向けての取り組み

- ▶金銭的な支援
- ▶移住者受け入れ環境の整備
- ▶住宅設備の整備・拡充
- ▶労働条件の適正化
- ▶居住地の確保、冬期間の雇用
- ▶お試し移住者の定員増加
- ▶二拠点生活⇒永住者の増加
- ▶住居が足りていないため町営での建設
- ▶登山と組み合わせた山コン
- ▶受け入れ体制の強化
- ▶福祉の充実
- ▶移住ポータルサイトのPR

26

### アンケート調査の結果

8. 利尻島の景観を保つための取り組み

- ▶地域住民のゴミに関する意識の向上
- ▶来島者への呼びかけ
- ▶登山道の確保
- ▶日々の管理と手入れのボランティア要請
- ▶自然保護の啓発活動
- ▶地域の人々や関係人口となる人々の様々なアイデアを尊重し手法を考え合う
- ▶ゴミ拾い、空き家解体
- ▶コマドリプロジェクトを広く知ってもらい  
⇒得た寄付金を登山道の整備に充てる

27

### アンケート調査の結果

9. 利尻島の魅力は？

- ▶魚介のイメージが強いが乳製品やラーメンなど食のレパートリーがあり、味覚・視覚が楽しめ自然を体感できる
- ▶自然景観（利尻山、ベシ岬など）
- ▶山、森、水、海
- ▶流れる時間がゆっくり
- ▶海産物が安い
- ▶平和で一人一人が自分らしく生活でき、見てもらえる
- ▶利尻岳を核とした自然環境
- ▶人の温かさ

28



ご清聴ありがとうございました！

プロジェクト学生一同

29

## おわりに

「学生発案プロジェクト 利尻島地方創生フィールドワーク」もこの報告集作成が最後となりました。

昨年5月に学生に声を掛けてスタートしたフィールドワークですが、現地に辿り着くまでには山あり谷ありと前途多難な日々を過ごしました。フィールドワークの内容を考え、話し合い、現地での活動に向けて毎週事前学習を実施しました。

実際に利尻島に渡って経験したさまざまなことや島民の心の温かさに触れたこと、さらには離島フェアにボランティアとして参加し、他の離島の様子を知ったことなど、今まで経験したことのない活動の連続でした。

1月中旬の「利尻島地域創生フィールドワーク報告会」では、現地でお世話になった利尻富士町役場職員をお招きし、今回の活動の様子を報告しました。

見知らぬ離島「利尻島」でどんなふうに活動したら良いだろうと不安を抱えていた学生にとって、島民の心温かいおもてなしで緊張も溶け、本当に学ぶことの多い貴重な体験となりました。

また、人口減少が続く離島の様子を実際にみたり、アンケート調査の結果や島民との対話の中で、今後私たちが考えていかなければならない地域創生についても深く学ぶことができました。

利尻島地域創生フィールドワークで得たさまざまなことを、今後の社会生活で生かしてくれることを切に願っております。

最後になりましたが、今回の学生発案プロジェクト実施にあたり、**ご協力いただいた本学コラボレーションセンターの関係教職員や学生のみなさん**、また利尻島内での研修でお世話になった利尻富士町・利尻町役場職員のみなさま、さらには教育視察に協力いただいた北海道利尻高校・利尻富士町立鴛泊中学校・利尻町立仙法志小学校の教職員のみなさまに心から感謝申し上げます。

この地方創生フィールドワークが一度限りで終わるのではなく、今年度得た成果や課題を生かして、さらに充実したフィールドワークの活動を継続していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

人文学部人間科学科  
教授 栃真賀 透

札幌学院大学2024年度学生発案プロジェクト  
「利尻島地域創生フィールドワーク」

編集担当 札幌学院大学人文学部人間科学科  
教授 栃真賀 透

利尻島地域創生フィールドワーク参加者

D220237	高松	未菜
D220377	金澤	瑞姫
D220415	今井	柚花
D220423	橋詰	多絵
L220048	岡田	朝日
L220331	酒井	啓達
L220455	佐藤	遥
L220552	井上	葵
引率	照山	秀一
引率	栃真賀	透

発行日 2025年3月10日発行